
避難時の簡易ベッド

Q 避難所等での感染症対策について、食事面と衛生面から考える必要があるが、対策はあるか。

A 清掃、消毒、換気のほか、健康管理を促すこととしている。事業者の協力を得て少しでも栄養バランスの良い食事ができるよう努める。

Q 過酷な環境下の子どもたちに対して、地域防災計画では心のケア対策について記載されているが、具体的に何か。

A 県教育委員会との連携で、子どもなんでも相談がある。また、別スペースを案内するなど状況によってできる限り対応する。

Q 事件や事故の未然防止対策があるか。

A 三条警察署と協定を締結し、災害に便乗した犯罪への対策や防犯活動について相互協力することとしている。また、警察の動きが抑止力にもなっている。

Q 災害ボランティアセンターについて、継続的かつ円滑に運営できる仕組みをどのように構築しているか。

A 平時から各団体との連携方法や役割を確認し、また社会福祉協議会が同センターの設置運営マニュアルを整備している。

外山 隆介 議員の質問

国道403号三条塚野目道路と都市計画について

Q 国道403号三条塚野目道路と新保裏館線北工区を一体的に整備するとともに、道路整備の効果を企業誘致や雇用創出につなげるため、道路完成を待たず沿道土地利用や産業用地の検討を進めるべきではないか。

A 国道403号三条塚野目道路と新保裏館線北工区は、一体的に事業効果を発現する道路として県と連携し整備を進める。都市計画や産業振興など関係部局が横断的に連携し、沿道を含めた土地利用や将来必要となる産業用地について、道路完成を待たず検討を進める。


県道塚野目代官島線で終点となっている国道403号三条北バイパス

地域未来戦略と三条市のこれからの産業成長について

Q 三条市が培ってきた鍛造、切削、研磨、プレス、金型、機械加工などの技術を、新たな成長市場につなげていくべきではないか。また、今後の産業成長に向けた戦略や目標を示す考えはないか。

A 新産業の育成、新分野への進出にはさまざまなアプローチがあるが、多様な技術集積を生かし、個々の企業の強みを生かした新たな挑戦を後押しすることもその一つと考えており、関係機関と連携した研究開発、技術開発や設備投資の支援に取り組んでいる。10年、20年先を見据えた目標は形骸化が避けられないが、現在の経済ビジョンに基づき施策を進める。

阿部 育子 議員の質問

不登校児童生徒が通うフリースクールについて

Q 民間のフリースクールの費用は経済的負担が大きい。子どもの心は繊細で、市が用意した居場所に行けない場合もある。フリースクールへの費用助成を検討できないか。

A 学びの多様化学校について検討を開始した。フリースクールは、新たな学びの場、居場所になり得ると認識する一方、内容や形態がさまざまであり、一律の支援は慎重にすべき。現時点で助成は考えていない。引き続きフリースクールとの連携や教育支援を深める。

うつ対策について

Q 自殺予防のため、うつ対策は重要。健診等既存事業でスクリーニング（気分、睡眠等うつ症状に関する質問票）を用いて、早期発見や支援につなげられないか。

A 健診会場での質問票の回収や面談でのプライバシー確保、事後のフォロー体制等の課題から、現状では実施困難。

人工透析患者の通院について

Q 人工透析患者は、生涯にわたる通院に不安がある。持続可能な通院支援の仕組みが必要。外来患者の送迎も含めたマッチングの仕組みを導入できないか。また、検討に向けて患者、家族、医療機関、福祉事業所と話し合いの場を持てないか。

A 医療機関と連携し、通院に関するニーズを把握し、公共交通の所管部署と協議する。

目黒 博 議員の質問

人口減少対策と本市の具体的な将来ビジョンについて

Q 「人口減少を前提としたまちづくりを進める」との市長答弁に対し、何としても人口減少の低減を図るという強い姿勢を示すべきではないかと考えるが、市長の考え、深層を伺う。

A 人口減少を前提としたまちづくりというのは、将来の人口が推計どおりになることを確定的に捉え、その減少をそのまま受け入れるということではない。教育を充実させ、若者が学び、働き、暮らし続けたいと思える環境づくり、子育て支援、産業の成長、雇用の創出等により、人口減少のスピードをできる限り緩やかにしていかなければならない。

子育て支援について

Q さらなる子育て支援により、少子化を低減させる必要がある。その対策として、3歳未満児の保育料負担の軽減と予算配分の在り方について伺う。

A 子育て世帯の経済的負担を軽減することは、安心して子どもを産み育てる環境を整える上で重要な視点である。一方で、保育料の軽減は毎年度継続して必要となる経費のため、さまざまな行政需要にどのように財源を配分すると効果的なのか検討する必要がある。3歳未満児の保育料を半額とすることは予定してないが、子育て世帯のニーズを勘案して支援の在り方を検討したい。

馬場 博文 議員の質問

避難所運営の課題について

Q 車中泊避難者や在宅避難者の把握はどうするのか。

A 新潟県避難所アプリでの登録や避難所の受付で伝えてもらい把握する。

Q 停電時の電源はどうするのか。

A 市内69避難所中、6避難所には非常用電源を備えている。また、ポータブル電源を51台備蓄しているが、今年度さらに大容量ポータブル電源を整備する。

Q 食物アレルギーに配慮した食品は用意しているのか。

A 備蓄を進めている。

特定外来生物の対応について

Q 地球上最悪の水草と言われているナガエツルノゲイトウの被害が日本全国で広がり、隣県の群馬県等での被害が報告されているが、三条市ではどのような対策を取るのか。

A 土地改良区をはじめ、県や農業委員会等の関係者と連携し対応していく。

帯織街苑の現況とこれからについて

Q 現在、85区画のうち74区画が分譲済みになっているが、宅地や住宅を無償譲渡する自治体がマスコミに注目されている。残りの区画の一部を移住者に無償譲渡して、マスコミに取材されることで残り区画の完売を図ったらどうか。

A 物価上昇や物資の不足等の影響もある中、慎重な検討が必要。住宅メーカー等と意見交換しながら、無償譲渡等を含めた販売促進策について検討していく。


帯織街苑空き区画の一部

内山 信一 議員の質問

しらさぎ森林公園およびトレッキングコースの整備について

Q 同森林公園周辺には隠れた穴場や少し手を加えれば散策できる山道がある。栄地域の資源として整備してはどうか。

A 地域内のオープンファクトリーといったほかの観光コンテンツと組み合わせた魅力の発信を花菖蒲まつりを通じて実施している。限られたリソースの中でこれらに重点を置いていることから、トレッキングコースおよび周辺の整備に取り組むことは考えていない。


しらさぎ森林公園

三条市職員の人事異動および任用等について

Q 今年度の人事異動は、過去に例のないほど幹部職への人材登用がなされたと感じた。私だけでなく、市民や行政関係者、市長経験者からも同様の